

## 長崎県植物誌ノート(42)

中西弘樹<sup>1)</sup>

## Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture (42)

Hiroki NAKANISHI<sup>1)</sup>

**Abstract:** Seven domestic species and four alien species which were newly found in Nagasaki Prefecture and eight rare species were described. The distribution map of *Cerastium fischerianum* var. *molle* in the prefecture was illustrated.

## はじめに

本研究は長崎県のフロラの解明を目的とするもので、主として外山(1980)の「長崎県植物誌」および松林(1981)の「長崎県シダ植物誌」の目録に記されていない、いわゆる県新産の植物と、希産種の産地追加を記録する。記載の形式は前回までと同様である。一部の調査に同行いただき、また情報をいただいた江頭一政氏、養田清隆氏にお礼を申し上げます。

## 県新産の植物

## 新産の在来種

402. ミドリヒメワラビ *Thelypteris viridifrons* Tagawa (ヒメシダ科) (図1)

五島市上大津町坂の上[福江4, 4929-06-27], 50m, May 24, 2014, (No.22729); 大村市重井田町大谷水神[諫早3, 4930-30-70], 480m, Aug. 21, 2014, (No.22922)



図1. ミドリヒメワラビ.

東北以南の本州、四国、九州に広く分布するが、これまで長崎県からは記録されていなかった。林縁部に生育し、ヒメワラビと似ているが、小羽片に柄があることで区別できる。大村市の産地は江頭一政氏の発見である。

403. ビッチュウヒカゲワラビ *Diplazium × bityuense* Tagawa (イワデンダ科)

大村市黒木町大払[諫早3, 4930-30-64], Oct. 26, 2013, 500m, (No.22936); 東彼杵郡川棚町虚空蔵山[早岐1, 4929-57-03], 400m, June 17, 2014, (No.22760)

ヒカゲワラビとオニヒカゲワラビの雑種で、大きさや全体の形はヒカゲワラビに似ているが、小裂片が細く、羽軸の裏には短毛があることなどで区別できる。黒木町では両種が生育しているが、虚空蔵山ではヒカゲワラビしか生育していない。

404. フナコシイノデ *Polystichum × inadae* Sa.

<sup>1)</sup>〒851-2130 長崎県西彼杵郡長与町まなび野2丁目29-4 亜熱帯植物研究所

Kurata (オシダ科)

雲仙市小浜町雲仙空池付近 [島原4, 4930-02-82], 740m, Aug. 25. 2014, (No. 22811)

イノデとサカゲイノデの雑種で、葉身の色や質はイノデに似ているが、鱗片がサカゲイノデと似ているので、容易に本種とわかる。植林地の林床に生育していた。

405. オオハリイ *Elaeocharis congesta* D. Don f. *dolichochaeta* T. Koyama (カヤツリグサ科)

西海市西彼町白似田郷中部 [大村3, 4929-36-63], 40m, Sept. 15. 2014, (No. 22925)

ハリイより全体に大きく、基部の赤褐色の部分が広い。果胞も大きいことで区別できる。山間の放棄水田に1株のみ生育していた。

406. スジヌマハリイ *Eleocharis equisetiformis* (Meinsh.) B. Fedtsch. (カヤツリグサ科)

佐世保市吉井町上吉田五蔵池 [佐世保2, 4929-65-96], 220m, June 13. 2014, (No. 22721)

オオヌマハリイ(ヌマハリイ)と似ているが、それよりも稈はやや細く、瘦果も小さい。また、刺針状花被片がオオヌマハリイでは5, 6本であるが、スジヌマハリイは4本であることにより区別できる。上記の地に群生している。

407. ミヤマヌカボ *Agrostis flaccida* Hack. (イネ科) (図2)

島原市雲仙山系平成新山 [島原3, 4930-12-14], 1390m, Aug. 6. 2014, (No. 22947)

平成新山にイネ科の先駆植生があることを、2013年に蓑田清隆氏が発見した。2014年に許可をもらって調査をしたところ、ミヤマヌカボが群落を形成していることがわかった。本種は風



図2. ミヤマヌカボ。

による長距離散布は不可能と思われ、噴火以前から普賢岳にわずかに生育していたものが、先駆的に侵入し、繁茂したものと考えられる。本種はこのように山岳の岩場に先駆的に群生することが知られている。

408. オキナワテイカズラ (リュウキュウテイカズラ) *Trachelospermum asiaticum* (Siebold et Zucc.) Nakai var. *liukiense* (Hatus.) Hatus. (キョウチクトウ科)

長崎市脇岬町木場 [野母崎②-3, 4829-76-25], 200m, June 14. 2014, (No. 22764)

テイカズラに比べて、花はやや小さく、花筒も短い。萼裂片は長さ約1mmで、卵形か広卵形である。本変種についてはこれまで注目してこなかったため、県南部の他の地域にも分布している可能性がある。

新産の帰化植物

409. ヒナキョウソウ *Triodanis biflora* (Ruiz et Pav.) Greene

佐世保市下本山町 [佐世保2, 4929-41-15], 70m, May 19. 2014, (No. 22767)

北アメリカ原産の帰化植物で、キョウソウに比べてやや小型で、全体にほっそりとしており、葉は小さい。閉鎖花をつけることが多い。道路の縁や空き地などに生育している。

410. アマゾントチカガミ *Limnium laevigatum* (Humb. et Bonpl. ex Willd.) Heine (トチカガミ科) (図3)

諫早市森山町唐比 [肥前小浜1, 4929-16-86], 10m, June 21. 2014, (No. 22780)

トチカガミに似ているが、それよりも小さく、葉の上面には不規則な茶色の模様が入る。唐比

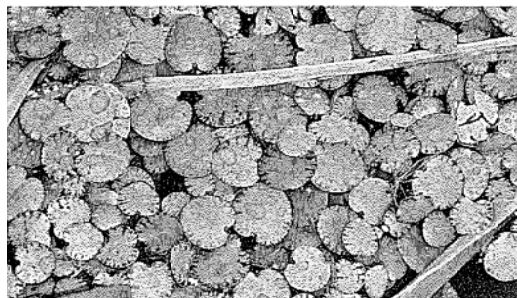


図3. アマゾントチカガミ。

湿地のハス園に侵入している。

411. ダキバアレチハナガサ *Verbena incompta* Michael (クマツヅラ科)

西彼杵郡時津町左底郷野添 [長崎3, 4828-75-94], 130m, June 14. 2014, (No.22779)

南アメリカ原産の帰化植物で、ヤナギハナガサと似ているが、葉の幅はそれよりも幅広く、基部は茎を抱く。また、茎は中空ではない。全体に剛毛が生えており、ヤナギハナガサよりも硬い。ヤナギハナガサと同じような立地に生育しており、しばしば混生している。上記の生育地は蓑田清隆氏に教えてもらったものである。

412. バクヤギク *Carpobrotus chilensis* (Molina) N. E. Br. (ハマミズナ科)

長崎市脇岬町脇岬 [野母崎②-4, 4829-66-82], 3m, Nov. 17. 2007, (No.22935)

園芸用に栽培されるが、かなり以前から各地で野生化している。乾燥に強いので、海岸に広がり、在来種を駆逐しており、有害外来種となっている。以前から注目していたが、種名が不明であった。長崎市脇岬では砂丘に広がっているし、壱岐市郷ノ浦町弁天岬では海岸岩上を広く被っている(図4)。



図4. 海岸岩上に広がるバクヤギク。

#### 希少植物の産地追加

339. デンジソウ *Marsilea quadrifolia* L. (デンジソウ科)

西海市崎戸町江ノ島 [志々伎②-4, 4929-42-08], 10m, May 2. 2014, (No.22674); 長崎市高浜町越池 [野母崎②-3, 4829-76-22], 5m, July 17. 2014, (No.22807)

かつては広く分布していたと思われるが、対

馬や諫早市などの生育地も急激に少なくなっており、人為の影響ばかりでなく、湿地の自然遷移に伴って消失している。したがって、現存している生育地はごくわずかであると考えられる。上記の2地点はかなり安定しており、新しい生育地として記録しておく。

340. ミズワラビ *Ceratopteris thalictroides* (L.) Brongn. (イノモトソウ科)

長崎市高浜町越池 [野母崎②-3, 4829-76-22], 5m, Oct. 11. 2014, (No.22934)

本種も近年になって生育地が少なくなっており、筆者が確認している現存する生育地は諫早市に3カ所、時津町に1カ所のみである。長崎市からは初めての発見である。生育地は水田に隣接した水田跡地である。

341. ヤワラハチジョウシダ *Pteris natiensis* Tagawa (イノモトソウ科) (図5)

西海市大瀬戸町雪浦幸物郷 [神浦1, 4929-35-37], 180m, Aug. 12. 2014, (No.22863)

本種はこれまで旧長崎市南部、五島市、新上五島町にまれに知られている。これらの生育地もシカの食害を受け、現存している個体数はごくわずかであると考えられる。上記の地にも数株生育しているのを発見した。



図5. ヤワラハチジョウシダ。

342. アワボスゲ *Carex brownii* Tuck. (カヤツリグサ科)

佐世保市鹿町町目暗ヶ原 [佐世保3, 4929-74-09], 300m, May 30. 2014, (No.22740)

外山(1980)によって平戸、壱岐、対馬で記録されており、中西(2013)は東彼杵町で記録していた。佐世保市にも生育しており、県内の草地に広く分布していることがわかった。

343. キノクニスゲ *Carex matsumurae* Franch.  
(カヤツリグサ科)

五島市上大津町坂の上[福江4, 4929-06-27],  
50m, May 24. 2014, (No.22727)

本種の分布と生態については中西(2011)によってまとめられており, 無人島のような小さな島嶼部に多くの生育地が知られている。しかし, 五島列島からは知られていなかった。上記の生育地は, かつての海岸林の林床で, 多くの個体が生育している。

344. ベンケイヤワラスゲ *Carex benkei* Tak.  
Shimizu (カヤツリグサ科)

東彼杵郡東彼杵町大野原 [早岐2, 4929-47-39], 440m, June 6. 2013, (No.22714)

本種は海岸近くの湿地に生育することが知られ, 県内からも対馬市美津島町から記録されている。大野原のような内陸の湿地に生育していることは不思議なことであるが, 形態から本種と同定した。

345. ゲンカイミミナグサ *Cerastium fischerianum* Ser. var. *molle* Ohwi (ナデシコ科)

西海市崎戸町江ノ島 [志々伎②-4, 4929-42-09], 5 m, May 2. 2014, (No.22674)

本種は対馬, 壱岐から五島列島にかけて分布し, 本土側では松浦市と平戸市の一部にのみ知られている。西海市では初めての発見であり, 分布の限界線にあたる(図6)。江ノ島では崖地ではなく, 砂丘の安定地に生育していた。

346. ヒメキランソウ *Ajuga pygmaea* A. Gray (シソ科)

五島市玉之浦町大瀬崎 [玉之浦3, 4828-34-38], 200m, May 23. 2014, (No.22733)

本種は九州西廻り分布を示す植物で, 県内では平戸市, 松浦市, 壱岐に知られており, 壱岐の南端部が北限となっている。しかし, 五島からは知られていなかった。これまでは知られて

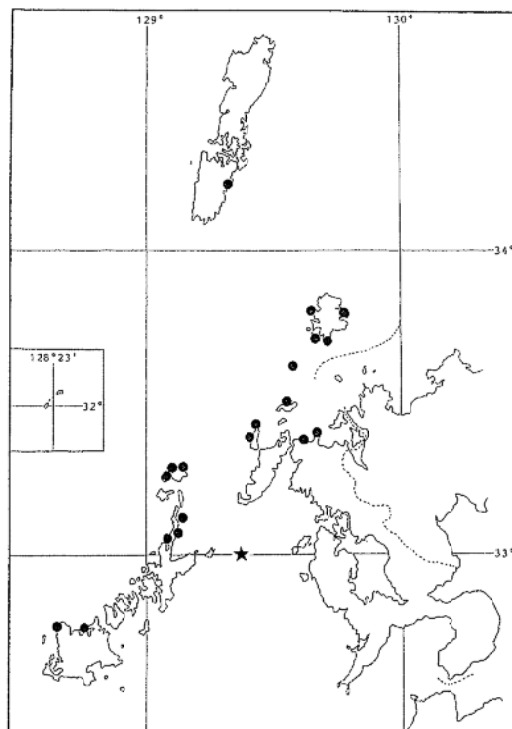


図6. ゲンカイミミナグサの分布。  
★は新産地を示す。

いた生育地はすべて海岸崖地であり, 上記の地は海岸からやや離れた林縁部であったので, 本種かどうか確信がもてなかった。栽培して観察した結果, ヒメキランソウと同定できた。

#### 引用文献

- 松林文作 1981. 長崎県シダ植物誌. 104pp., 長崎県出版文化協会, 長崎.  
中西弘樹 2011. キノクニスゲ *Carex matsumurae* Franch. (カヤツリグサ科) の分布と生態. 植生学会誌 28: 113-122.  
中西弘樹 2013. 長崎県植物誌ノート. 長崎県生物学会誌 73: 14-17.  
外山三郎 1980. 長崎県植物誌. 321pp., 長崎県生物学会, 長崎.